

平成30年6月1日

関係の皆さま

京丹後市での野外コウノトリへの托卵の結果について

兵庫県立コウノトリの郷公園

先般、コウノトリの遺伝的多様性保全と研究のため、京丹後市久美浜町市場人工巣塔で抱卵中の近親婚ペアに対して托卵を実施しましたが、その結果について別紙のとおりお知らせします。

写真、映像はありません。

兵庫県立コウノトリの郷公園

担当：田中 電話 0796-23-5666

京丹後市久美浜町市場巣塔での野外コウノトリへの托卵の経緯と結果について

- 1) 目的：近親ペアによる次世代生産の回避、及び野外個体群の遺伝的多様性の向上
- 2) 繁殖個体：「106 メス 15F アカイシ、122 オス 16F アカイシ」の姉弟ペア
- 3) 托卵の経緯：2018 年 5 月 11 日に高所作業車を用いて、巣から 1 卵を回収し、その代わりに野外個体群の遺伝的多様性を高める遺伝形質をもつ 2 卵（両親は飼育ペア）を托卵した。なお、托卵された 2 卵は 5 月中旬に孵化予定の有精卵であった。
- 4) モニタリングとその結果

托卵前の 5 日間（4 月 5 日、6 日、12 日、14 日、24 日）に、毎回 8 時間以上の連続観察を行った。また托卵当日以降の連続 19 日間（5 月 11 日～29 日）にも、毎回 8 時間以上の連続観察を行った。

5 月 11 日の托卵後、オスは抱卵を行わず、メスが単独で抱卵を続けたが、3 日後の 5 月 14 日からは、自らの採餌、飲水のため巣を空けるようになった。いっぽうオスは、5 月 17 日からは抱卵の一部を担うようになったものの、これが継続せず、5 月 21 日以降は雌雄ともに巣を離れるようになった。

そこでふ化予定日を過ぎた 5 月 29 日に、高所作業車を用いて巣塔に上がったところ、巣内には卵も卵殻も存在しなかった。なお、托卵前のモニタリングにおいても、オスの抱卵時間の割合（オスが巣に座っていた時間/観察時間）は平均 18%であり、メスの平均 72%（メスが巣に座っていた時間/観察時間）に対して圧倒的に小さかった。

5) 結論

托卵した卵は孵化にいたらなかった。「抱卵においてオスが非協力的であったこと」が原因と考えられる。なお托卵後のモニタリング中に、カラスなどの第 3 者が、巣から卵を持ち出すことは観察されていないので、卵消失の原因は不明である。

参考：回収した 1 卵（姉弟ペアの卵）は、いったん孵卵器にいれたが、翌日（5 月 12 日）腐敗していることが判明した。